

東日本大震災に学ぶ
地震について、一緒に考えてみませんか？

地震と私たち



© JAPAN-DA

正しく学ぼう！あの日のこと、これからのこと。



SOMPO ホールディングス | 保険の先へ、挑む。
損保ジャパン日本興亜

はじめに

2011年3月11日14時46分、我が国観測史上最大のマグニチュード9.0という未曾有の大地震が日本を襲いました。

東北地方を中心に東日本全域に被害を及ぼしたこの大震災は、今もなお、行方不明の方、避難生活を余儀なくされている方がおられ、復興は道半ばです。

この大震災は、日本社会にとっても、保険業界に身を置く当社・当社代理店にとっても、痛切な体験となりました。

私たちは、たとえ何世紀が経過しようとも、この大震災を決して忘れてはなりません。しかしながら、このような大きな災害でさえ、時間の経過と共に風化し、鮮明だった記憶も徐々に薄らいでしまう可能性を否定できません。

そこで、損保ジャパン日本興亜では、この大震災を通して何を考え、どのように行動したのかを、お客さまにお伝えし理解していただく事で、地震について考えて欲しいと思い、1冊の冊子にいたしました。

東日本大震災で被害にあわれた方に改めてお見舞い申し上げ、一日も早い復興を願うと共に、「地震に備えるとはどういうことか」を今一度考える一助となれば幸いです。

2016年2月

目次

はじめに、目次	1
1 東日本大震災をふりかえる	
・ 東日本大震災の被害について	2
・ あの日の震災と向き合った私たちの取組み	3
・ 被災地の方々の声	4
・ 復興の状況	5
2 地震について考える	
・ 地震発生のメカニズム	6
・ 巨大地震発生の危険性	7-8
3 地震に備える「地震保険」	
・ 地震保険の必要性	9-10
・ 「家財の地震保険」の必要性	11
防災クイズ! あなたの防災知識はどれくらい?	12
4 被災地の復興へ向けて	
・ 東日本大震災復興支援に向けた取組み(私たちにできること)	13
・ 防災教育の普及(自分で身を守る子どもたちを育てる)	14

1 東日本大震災をふりかえる

© JAPAN-DA



東日本大震災の被害について

東日本大震災は、過去の地震災害の中でも大きな被害をもたらしました。



当時の被災地の様子

■ 甚大な被害をもたらした大規模地震

	災害名	発生年	規模	死者・行方不明者	建物被害
1	関東地震 (関東大震災)	1923年	M7.9	105,385人	372,659棟
2	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	2011年	M9.0	20,960人	1,137,785棟
3	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	1995年	M7.3	6,437人	639,686棟

【出典】消防庁HP (http://www.fdma.go.jp/concern/publication/higashinihondaishinsai_kirokushu/pdf/honbun/03-04.pdf)

■ 地震保険金の支払額が多い大規模地震(1964年以降)

	災害名	発生年	規模	支払保険金
1	平成23年東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	2011年	M9.0	12,654億円
2	平成7年兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	1995年	M7.3	783億円
3	宮城県沖を震源とする地震	2011年	M7.2	323億円
4	福岡県西方沖を 震源とする地震	2005年	M7.0	170億円
5	平成13年芸予地震	2001年	M6.7	169億円
6	平成16年新潟県中越地震	2004年	M6.8	149億円

【出典】ファクトブック2015日本の損害保険(一般社団法人日本損害保険協会)

あの日震災と向き合った私たちの取組み

■ 災害対応を通して改めて感じた「保険会社としての使命」

あの日、突然起きた未曾有の大地震。
損保ジャパン日本興亜では、東日本大震災発生直後に、危機対策本部を本社に設置すると共に、全国12か所に地区災害対策本部を設置しました。全国から3,000人を超える社員を被災地へ派遣し、代理店と共に、被災されたお客さまに「一日も早く保険金をお支払いする」という保険会社としての最大の使命を果たすことに全力を注ぎました。(当時の損保ジャパンの対応)



当時の地区災害対策本部の様子

迅速な保険金支払いに全力を

東日本大震災に係る地震保険の支払件数および金額（損害保険会社全社）

受付件数	549,062件
支払件数	391,256件
支払保険金	7,582億円

(2011年5月18日時点)【出典】日本損害保険協会HP

損保ジャパン日本興亜の
震災2か月後の
保険金支払い
完了率

➔ 約80%

■ 被災地で対応にあたった社員の声

お客さまにいただいた「感謝の言葉」が原動力

損害調査に飛び回る私たちに対し、ご自身も大変な状況におかれていらっしゃるにも関わらず、ねぎらいや感謝の言葉を多数いただき、お客さまに喜んでいただけることが私たちの原動力であることを実感しました。今もその思いを胸に業務に取り組んでいます。



損害調査の様子

「すべてはお客さまのために」を合言葉に

福島は、地震・津波に原発事故も加わり、損害調査等の対応が難しい状況でしたが、「すべてはお客さまのために」を合言葉に、社員・代理店が一致団結し、全力で保険金のお支払い業務などにあたりました。数多くの感謝の声をいただき、「お客さまに真剣に向き合うこと」の大切さを改めて学びました。



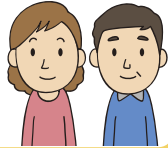
被害を受けた当社代理店の様子



被災地の方々の声

■ 被災され保険金を受け取られた方の声

地震発生時、自宅に不在で屋根の損傷に気づきませんでした。その後、雨漏りがひどく困っていました。保険会社の素早い対応で地震保険金をいただき、屋根が直った今、安心して暮らしております。地震保険に加入して本当に良かったです。



家財の損傷が軽微であったため、事故連絡をしませんでした。ところが調査員の方から丁寧な地震保険の補償内容の説明を受けたうえで、地震保険金をお支払いいただきました。

震災で沈んでいた気持ちに少し余裕と明るさが戻りました。ぜひ、宮城県の被災地の人間からお礼の言葉があったとお伝えください。



■ 被災地の代理店の声



「あの時、教えてくれれば良かったのに・・・」だけは聞きたくない

私どもの事務所も、地震と津波で大きな被害を受けました。震災後は、地震保険に加入されていないお客さまは、精神的な苦勞に加えて経済的にも大きな負担が生じ、大変な苦勞をされていました。

地震保険に加入されるか加入されないかは、お客さまが判断されることです。私たちは保険のプロとして、きちんとお客さまに案内をすることが使命と考えております。

もし、もう一度地震があったとしたら、後になって「あの時、教えてくれればよかったのに・・・。」という言葉だけは聞きたくないと思っています。

被災され、地震保険の保険金を受け取られたお客さまから、多くの感謝の声をいただきました。

実際に被災地では、震災前後を比較すると、地震保険を付帯される方が増えています。保険金を受け取られた方はもちろん、これまで加入されていなかった方も、東日本大震災を機に改めて地震保険の必要性を感じていただいています。

宮城県の
地震保険付帯率

2010年度(震災前)

68.7%

2014年度(震災後)

85.3%

16.6%
増加

参考

全国平均地震保険付帯率(2014年度) 59.3%

【出典】

損害保険料率算出機構資料

※「付帯率」は、当該年度中に契約された火災保険契約(住宅物件)に地震保険契約が付帯されている割合

復興の状況

■ 復旧・復興の進捗状況 (2015年9月末時点)

■ 幹線道路(直轄国道)



99%

■ 港湾



98%

■ 医療施設



95%

■ 復興住宅



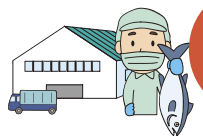
43%

■ 民間住宅等用宅地(戸数)



28%

■ 養殖施設



90%

【出典】復興庁HP(http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-2/20151117_FukkoShihyo.pdf.pdf)

公共のインフラの復旧・復興に比べて住宅の再建は思うように進んでいません。

■ 仮設住宅等の入居状況

(内閣府調べ)

		2014年4月	2015年4月	2015年9月	備考
公営住宅等	入居者数	22,645人	16,565人	15,218人	全国計
	入居戸数	8,440戸	6,436戸	5,911戸	
民間住宅 (みなし仮設)	入居者数	117,715人	90,767人	79,381人	全国計
	入居戸数	48,790戸	38,863戸	34,265戸	
仮設住宅	入居者数	96,519人	78,787人	68,083人	岩手県・宮城県・福島県 ※茨城県・千葉県は2014年には 仮設住宅(プレハブ)の供与を終了。
	入居戸数	43,898戸	37,398戸	32,676戸	

【出典】「復興の状況と最近の取組 平成27年11月版」(復興庁HP)

仮設住宅(プレハブ)で今なお約7万人の方が暮らしています

(震災から5年経過後時点)

約13万戸近くの建物が全壊し、仮設住宅(プレハブ)で暮らす避難者は、今なおおよそ7万人です。

本来、仮設住宅の入居期限は原則2年と定められており、その2年の間に、生活を再建し、自分の土地に家を建て直したり、部屋を借りたりする資金を蓄えてもらうことを想定しています。しかし、今もなお多くの人が、自分の土地に戻れない状況が続いています。



【出典】国土交通省HP「東日本大震災における応急仮設住宅の建設事例」

11月5日は「津波の日」 日本の「津波防災の日」が「世界津波の日」へ

2015年11月22日に国連総会で、11月5日を「世界津波の日」に制定する日本提出の決議案を全会一致で採択しました。

日本では11月5日は「津波防災の日」に制定されています。これは1854年のこの日(旧暦)に安政南海地震が発生し、津波の到来に気づいた和歌山県の村人が稲束に火を付けて他の村人を高台に避難させた「稲むらの火」の話をもとに制定されました。現在、和歌山県広川町には「津波防災教育センター 稲むらの火館」があり、津波への防災を後世に伝えています。

2 地震について考える

© JAPAN-DA



地震発生のメカニズム

日本で発生する地震は、発生メカニズムと発生場所によって、大きく「海溝型地震」と「直下型地震」の2つに分けられます。

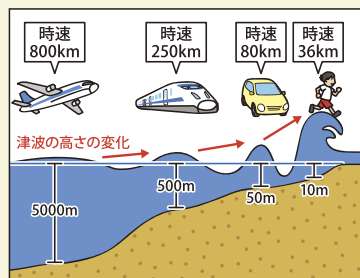
	海溝型地震	直下型地震
発生場所	海底にあるプレートの境界で発生する地震	私たちが住んでいる土地の真下(直下)で発生する地震
地震発生のメカニズム		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな横揺れから始まり、長くゆっくりとした大きな横揺れが続く ・大規模な津波が発生する事が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・下から突き上げるような大きな縦揺れが続く ・揺れている時間が短い
過去発生した地震	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災(2011年) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災(1995年) ・新潟県中越地震(2004年) など

【出典】文部科学省地震調査研究推進本部「日本は世界有数の「地震国」」(<http://www.jishin.go.jp/main/pamphlet/kodomopanf/jishin02.pdf>)を参考に構成

東日本大震災の被害が大きくなった原因も津波でした

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。

逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなりますが、とはいえ、オリンピックの短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めるのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたり、津波警報が発表されたら、速やかに避難しましょう。



今後発生が予想される東海・東南海・南海地震も、津波を伴うことが多い「海溝型地震」であり、いつ発生してもおかしくないとされています！

【出典】気象庁ホームページ津波発生と伝播のしくみ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/generation.html>)を参考に構成

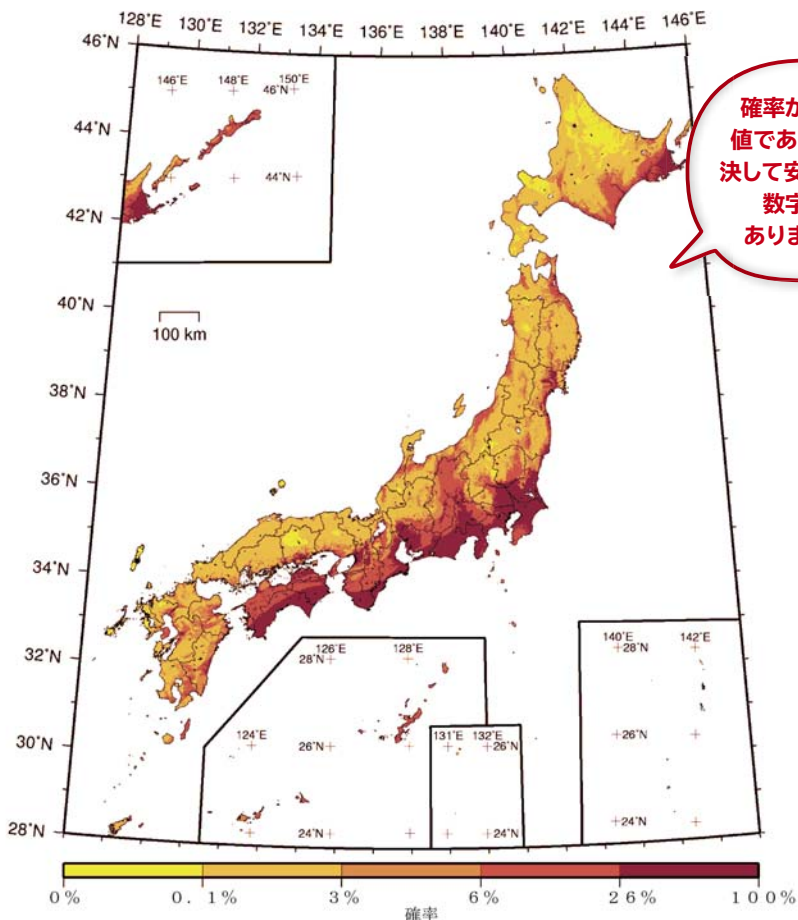
巨大地震発生の危険性

「近いうちに巨大地震が来る」と、最近頻繁に耳にしますね。
ここで改めて、地震の発生確率について考えてみましょう。

■ 今後30年以内に日本で巨大地震が発生する確率は…

以下の日本地図は、確率論的地震動予測地図といって「ある一定期間内に、ある地域が強い揺れに見舞われる確率」を色分けして地図上に示しています。

2014年から30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布
(平均ケース・全地震)(基準日2014年1月1日)



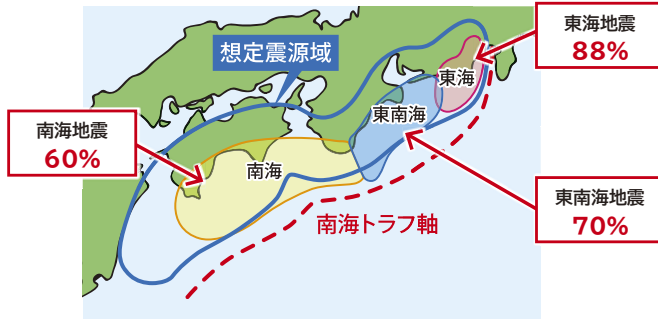


■ 巨大地震は繰り返し起きている？

この100年間に、日本では、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災という大規模な地震が3回も発生しています。歴史的に見て、これらの大きな地震は繰り返し発生しています。例えば南海トラフでは、およそ100年程度の間隔で地震が発生しています。

南海トラフとは…駿河湾から九州東方沖まで続く深さ約4,000メートル級の深い溝

今後30年以内に南海トラフで巨大地震が発生する確率



「30年以内に発生する確率」と言われると、随分先の話のような気がするわ・・・



※「発生する確率」であり、「被災する確率」ではありません。

【出典】内閣府HP(http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_genjou.pdf)

参考

今後30年以内に自然災害・事故などにあう一般的な確率

交通事故で
負傷
24%

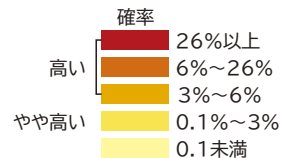
火災で被災
1.9%

大雨で被災
0.5%

台風で被災
0.48%

交通事故で
死亡
0.2%

航空機事故で
死亡
0.002%



【出典】文科科学省地震調査研究推進本部地震調査委員会「地震の将来予測への取組」「全国を概観した地震動予測地図」2008年版

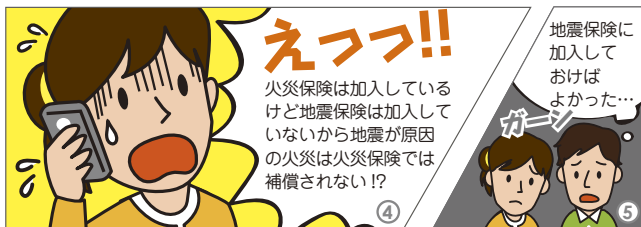
自然災害・事故などにあう確率は低いですが、多くの人は日頃からこれらの事故などにあわないよう意識しています。

地震に対しても「身近な危険」ととらえて、日頃から備える姿勢が必要です。

地震保険の必要性

地震への「経済的な備え」となるのが地震保険です。地震保険は“地震等による被災者の生活の安定に寄与すること”を目的とする制度であり、政府と損害保険会社が共同で運営しています。

地震保険に加入していないと…



**地震・噴火またはこれらによる津波
(以下「地震等」といいます。)による損害は、
火災保険では補償の対象となりません!**

損害の原因	火災保険	地震保険
地震・噴火またはこれらによる津波	×※1	○
上記以外	○	×

※1 地震等により延焼・拡大した火災損害も補償されません。

地震保険は、地震等を原因とする火災・損壊・埋没・流失によって損害が生じた場合に、建物・家財それぞれ最大で火災保険の保険金額の50%※2まで補償することができる保険です。

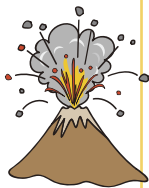
※2 建物:5,000万円、家財:1,000万円が限度となります。

(注)このご説明は地震保険の概要の説明となります。詳しい内容につきましては、「ご契約のしおり」「重要事項等説明書」をご確認ください。なお、ご不明な点は損保ジャパン日本興亜または取扱代理店までお問い合わせください。



地震保険は「噴火」を原因とする損害も補償対象です

日本には活火山が110山もあり、東日本大震災以降、火山活動が活発になっている傾向にあります。地震保険は、「地震」が原因の場合の損害だけだと思われがちですが、「噴火」を原因とする損害についても補償の対象となります。たとえ、地震が少ない地域や、津波の心配のない地域でも、これだけ火山の多い日本では噴火の損害に備えるためにも地震保険は重要なんですね。



2015年に発生した主な噴火	
2015年4月	蔵王山(山形県)
2015年5月	口永良部島(鹿児島県)
2015年6月	浅間山(群馬、長野県境)
2015年6月	箱根山(神奈川県)
2015年7月	雌阿寒岳(北海道)
2015年8月	桜島(鹿児島県)
2015年9月	阿蘇山(熊本県)



Check Point

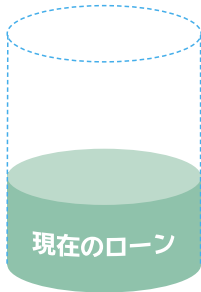


二重ローン問題の回避策として

地震や津波で自宅が全壊しても、住宅ローンはなくなりません。また、住宅再建のためには、新たな住宅ローンを組まざるを得ません。

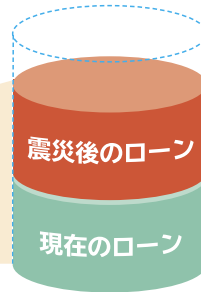
被災地では、多くの人が二重のローンを払い続けています。

想像してみましょう。今支払っている住宅ローンが2倍の負担額になったら…



現在の家計

ローンが2倍となり
家計を圧迫



震災後の家計



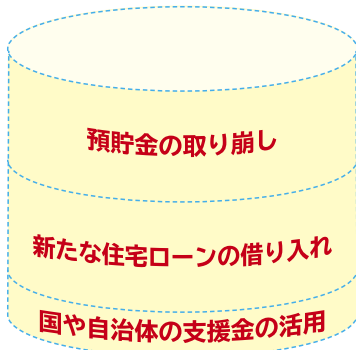
地震によって被る経済的な負担は、地震保険に加入しておくことで軽減することができます。

家計の負担を少しでも軽減するために

被災者生活再建支援法に基づく支援金の支給

地震により住宅が全壊し建て替えた場合、被災者生活再建支援金が支給されますが、支給額は**最大300万円**であるため、生活再建に必要な費用全てを賄うには不十分です。

地震保険金で全てを賄うことはできませんが、生活の再建に大きな役割を果たします。



地震保険加入なし



地震保険加入あり

「家財の地震保険」の必要性

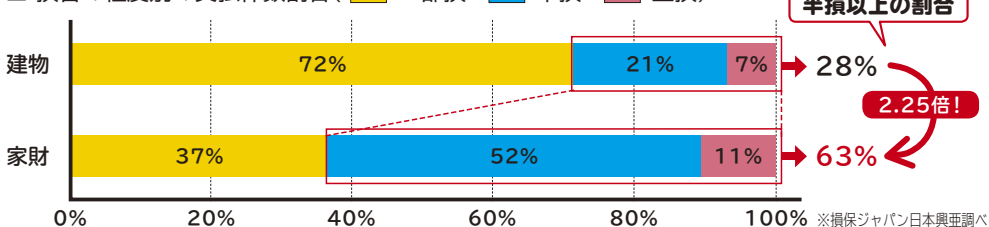
地震保険には、「建物の地震保険」と「家財の地震保険」があることを知っていましたか？地震と聞くと、倒壊などの「建物」の損害をイメージしがちですが、食器棚が転倒して食器が割れるなど、「家財」が損害を受けることも多くあります。

「家財」は「建物」よりも損害の程度が大きくなりやすい

近年、耐震性の高い建物が増えてきており、建物に損害が生じなくても家具類の転倒等で家財に大きな損害が発生する割合が高くなっています。

2011年度 東北6県における損保ジャパン日本興亜の地震保険金支払実績

■ 損害の程度別の支払件数割合 (黄色:一部損 青:半損 赤:全損)



※地震保険期間の始期日が2017年1月1日以降となるご契約から、損害区分が細分化され、4区分になりました。

「家財」は意外と高額

生活の中で徐々に増えていく家財。震災後に一度に買い揃えるとなると、思っている以上に大きな負担となります。

(例)世帯主年齢38歳・4人家族のケース(平成27年4月現在)



父 200万円

- 衣類(背広・普段着など) 120万円
- 寝具類(布団・パジャマなど) 30万円
- 身の回り品(腕時計・バッグ・靴など) 50万円



母 400万円

- 衣類(外出着・普段着など) 270万円
- 寝具類(布団・パジャマなど) 30万円
- 身の回り品(腕時計・バッグ・靴など) 100万円



子ども 130万円

- 衣類(普段着・運動着など) 60万円
- 寝具類(布団・パジャマなど) 20万円
- 学用品(文具・図書など) 20万円
- 玩具類(ゲームなど) 30万円



ご家族共通 570万円

- 家具 200万円
- 応接セット・タンス・戸棚など 105万円
- テレビ・ステレオ・エアコンなど 70万円
- じゅうたん・カーテンなど 25万円
- 台所用品 65万円
- 洗濯機・掃除用品 20万円
- 趣味・娯楽用品 155万円
- カメラ・ビデオ・パソコンなど 100万円
- 書籍・スポーツ用品・自転車など 55万円
- その他 130万円

合計 約1,300万円

「建物の地震保険」に加入しているだけでは、「家財」の損害は補償されません。「地震の被害が大きくなりやすい家財も地震保険に加入しておく」ことで、しっかり準備しておくことができます。

防災クイズ！

あなたの防災知識はどれくらい？

Q1

災害時には電話がつながりにくくなることがあります。
家族と連絡がとれない際に便利なNTTの「災害用伝言ダイヤル」。
この番号はどれでしょう？？

① 177

② 171

③ 117

Q2

これらのマークの意味の違いがわかりますか？？

①



②



③



A1

正解は「②171」です！

一般電話、公衆電話、携帯電話など、どこからでもメッセージの録音(30秒間)・再生ができ、留守番電話と同じような感覚で使うことができます。NTTが体験日を設けているので、事前に家族と試しておきましょう。

①177は「天気予報電話サービス」、③117は「時報サービス」です。

災害時に間違えないように注意してください。

災害時の安否確認は「**あの人^い71**」で覚えましょう。

A2

正解は

①避難所



②非常口



③避難場所



「避難所」は、地震などにより住宅が倒壊し、行き場がなくなってしまった方々を一時的に受け入れる場所で、食料や水の備蓄やトイレなどがあります。

「避難場所」は、災害時に地域全体が一時的に避難する場所で、大きな広場などのスペースをいいます。

※災害対策基本法で定義されています。

自身の避難所、避難場所を確認しておきましょう！

東日本大震災復興支援に向けた取組み(私たちにできること)

食の安全と物産品の魅力を伝える 東日本大震災復興支援マルシェ

風評被害に悩む農家や地元業者を応援するとともに、被災地の物産品の魅力を幅広く紹介し、食品の安全・安心を伝えることを目的に開催しました。



復興支援マルシェ
(本社)



2012年度復興支援販売会
(本社)



2014年度「東北3県復興支援マルシェ」
(日本橋)

心に寄り添う復興支援 人形劇を通じた子どもたちの心のケア

愛知県名古屋ビルにある「ひまわりホール」および



NPO法人愛知人形劇センターとともに、人形劇を通じた子どもたちの心のケアと地域コミュニティの再生・活性化を目的に、岩手県釜石市で人形劇等の出張公演を2011年度から継続的に実施しました。



人形劇団「むすび座」による公演の様子

復興に取り組むNPOのサポート役として社員を派遣 社員派遣プログラム

2012年度から、被災地復興に取り組むNPOのサポート役として社員を業務派遣する東日本大震災復興支援「社員派遣プログラム」を実施しました。

派遣先の団体スタッフとのコミュニケーションを重ねながら、課題解決に取り組みました。



2013年度「(一社)福島復興ソーラー・アグリ 体験交流の会」(福島)



2015年度「(一社)リばらす」(宮城)



防災教育の普及(自分で身を守れる子どもたちを育てる)

防災ジャパンプラプロジェクト

災害から身を守るための知識や安全な行動を学んでいただくことを目的に「体験型防災ワークショップ」および「防災人形劇」を、将来を担う子どもたちとその保護者を対象に実施しています。

■ 体験型防災ワークショップ

いざというときに役立つ知恵や技を、身体を動かしながら楽しく学ぶことができます。



応急手当てワークショップの様子



津波防災紙芝居の様子



ジャッキアップゲームの様子



防災カードゲームの様子

■ 防災人形劇

「災害の際には、あわてずに落ち着いて行動することが大切」であることを、人形劇を見ながら学ぶことができます。



パペットシアターゆめみトラंकによる「防災人形劇」オリジナルの防災ストーリー「さんびきのこぶた危機一髪！」の上演の様子



防災人形劇のキャラクター達

【引受保険会社】



SOMPO ホールディングス

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

Tel:03-3349-3111

〈公式ウェブサイト〉 <http://www.sjnk.co.jp/>

ご不明な点は、お問い合わせ先・取扱代理店までお問い合わせください。

お問い合わせ先 【取扱代理店】